



登米市教育研究所
〒987-0511 登米市迫町佐沼字袋向 150-1
HPアドレス <http://www.tome-avc.jp/rese/>
TEL 0220-22-8029(相談専用 22-8125) FAX 22-9114



突然ですが、世界で1番長い川はどこでしょうか。答えはアフリカのナイル川で、約6,650kmにもなるそうです。また、流域面積(その川に対して雪や雨などの降水が集まる範囲を流域といい、その面積を流域面積という。川幅とは違う。)世界一は南米のアマゾン川で、約7,050,000km²だそうです。日本の場合、一番長い川は信濃川で約367km、流域面積は利根川で約16,840km²だそうです。ちなみに川幅の世界一は南米のラプラタ川(河口付近)で約275kmだそうです。信じられない。本当に川?(アマゾン川という説もあるようです。どこが河口かが曖昧なようです。)

宮城県総合教育センター研修員等夏季研修会



8月23日(金)、総合教育センター研修員等夏季研修会が行われました。

この夏季研修会は総合教育センター研修員会登米支部と教育研究所との共催で開催されている研修会です。

<講師の小野寺文晃先生>

はじめに、総合教育センター研修員5名から発表していただきました。その後、教育研究所研究員代表2名から発表していただきました。

※ 紙面の関係上、ここでは研究主題のみ掲載させていただきます。

【総合教育センター研修員】

<新田小学校 教諭 佐藤 千恵 先生(道徳)>

○ 主題 『児童が道徳的価値について深く考える授業を目指して』
—発問の質や構成の工夫を通して—

<錦織小学校 教諭 瀬淵 文康 先生(理科教育)>

○ 主題 『児童が自ら問題を見だし、観察、実験の方法を発想する理科授業』—教師の事象提示と働き掛けをまとめた指導資料の作成と活用を通して—

<米岡小学校 教諭 高橋 宏典 先生(コミュニティ・スクール)>

○ 主題 『学校運営協議会の運用についての考察』
—運動実践を伴った地域の学校支援活動を通して—

<佐沼小学校 教諭 小川 裕輔 先生(教育相談)>

○ 主題 『「不登校の理解」を基盤とした各学校におけるチーム支援の充実』—効果的な支援につながるチーム会議を目指した「不登校対応パッケージ」の開発を通して—

<佐沼小学校 教諭 金 洋太 先生(理科)>

○ 主題 『児童が主体的に問題解決に取り組む小学校理科授業を目指して』—児童が行う質問づくりと一枚ポートフォリオ評価の工夫を通して—

【教育研究所研究員】

<算数・数学科部会代表 豊里小・中学校 教諭 日野 久美 先生>

○ 主題 『児童生徒の主体的・協働的な学びの実現に向けた授業改善』
—算数・数学科授業づくりの指針「MATHT(マスト)の提案を通して—

<読書活動部会代表 佐沼小学校 教諭 菊 恵子先生>

○ 主題 『本好きな子どもを育てるための読書活動』



<佐藤千恵先生> <瀬淵文康先生> <高橋宏典先生> <小川裕輔先生>



<金洋太先生> <日野久美先生> <菊恵子先生>

<No.11の答え>

$$3 \times 2 + 4 \div 2 = 8$$

$$9 \times 8 - 8 \times 8 = 8$$

頭の体操

<問題>

研究発表の後に、前佐沼中学校長 小野寺文晃先生より講話をいただきました。概要は以下の通りです。

【演題】「研修を積んだ現役の先生方に伝えたいこと」

1 はじめに

○ 「人間万事塞翁が馬」

○ 長期研修で得た最大の財産→人とのつながり=ネットワークの広がり

2 なぜ研修は必要なのか

○ 研修が必要とされる理由 ○ 研修の機会 ○ 研修の目的

○ 教育者として身に付けたいもの

3 教師の存在意義とは

○ 恩師の一言・授業を覚えていますか?

○ 知識が容易に入手できる時代

○ 『学ぶものだけが 伸びるものだけが教師たり得る』

『偉大なる人格は、自ら大いなる感化を及ぼす』



4 教師が教師であるために

○ 不易と流行 ○ いつでも弱音を吐けますか?

○ 『知彼知己者 百戦不殆』(孫子) ○ 人との関わりを大切に

5 おわりに

○ 『我以外皆我師』 ○ 教育はバトン

今回の研修会では、様々な準備や資料づくりなどに際し、総合教育センター研修員会登米支部の先生方、研究発表をしていただいた先生方にご協力いただきました。この紙面を借りて御礼申し上げます。

第2回 初任者研修

9月3日(火)第2回初任者研修が行われました。

研修日程は次の通りです。

皆さん、登米市の魅力を再発見したようでした。

長沼ボート場(ナックルフォア体験)

→昼食(道の駅みなみかた)

→大嶽山興福寺六角堂見学

→登米市消防本部(地震、煙道、

心肺蘇生法、AED体験)



<ナックルフォア体験の様子>

<参加者の感想(抜粋)>

- 実際に体を動かす活動が多く、より多くのことを感じ、学ぶことができた。今日の体験や得た知識を職場で生かし、子どもたちに還元したい。
- ナックルフォア体験では、力を合わせてターンをし戻ってることができた。これからも、周りの方の力を借りつつ職務を全うしたい。
- コックス役をして、常に全体を見てどんな判断を下すべきか、臨機応変に行動するスキルが磨けた良い機会になった。
- 興福寺では明治の文明開化や神道・仏教の歴史を色濃く感じることができ、大変勉強になった。
- 西洋建築の六角堂と石造りの道、本堂の絵の解説が印象的だった。今後の学級経営、教科指導につなげられるよう頑張る。
- 消防署での体験では、AEDや心臓マッサージの方法について再確認し、今後、緊急の場面で実際に行う意欲を高められた。

ある国にいる動物です。
馬、鹿、熊とあとひとつは?

答え